

平成27年5月 データから見た業界の動き

■ 概 況

5月の景況は、為替が一時1ドル124円台をつけ、約12年6ヶ月ぶりの安値となり日経平均株価も27年ぶり10日連続で伸長するなど円安、株高の影響により大企業の業績は回復傾向にある。

また、外国人旅行者による消費も後押しとなり山梨県内の宿泊業や観光関連業界は景気の改善が見受けられた。

しかし、原材料の高騰、エネルギー高、技術者不足等による人件費の増額等、製造業や建設業を中心にコスト増が収益を圧迫している。

特に、建設業関連は公共工事の発注の遅れから景況感が悪化している。

今後、輸入原材料の高騰から生じる物価上昇への懸念と消費マインドの冷え込みが足かせとなり、体力のない中小・小規模企業はますます厳しい経営を強いられることが懸念される。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は低調であったが、ホテル、レストラン向けの生食材や新商品が好調だったため全体の売上は前年同月比105%。原料高が続いているが、値上げ効果もあり利益は改善傾向にある。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の台湾輸出が好調だが、国内は値上げの影響により不振のため売上は前年同月比92%。利益面は、原料高が続いており値上げが追いつかず厳しい状況。
食料品（製麺）	売上は、ゴールデンウィークの反動減が今年是一段と大きい。
食料品（菓子）	輸入による原材料に依存する菓子業界にとっては、加速する円安は死活問題。利益を出すために菓子製造だけでなく、材料（餡・皮）の製造販売等に取り組みないと利益が確保できない状況にある。
食料品（ワイン）	ワインの原料となる葡萄の栽培農家が高齢化等により減少しているため、原料の調達が厳しくなると予測する。
繊維・同製品（織物）	インテリアはホテル関連は好調。服地は、高級品は順調だが一般向けは厳しい。裏地は減少したまま横ばい。また、バーバリーは国内アパレルメーカーとの販売契約が切れたため、3月で製造が終了したこともあり厳しい状況が続いている。
繊維・同製品（アパレル）	暑さにより夏物が好調。
木材・木製品製造	売上、収益状況ともに良くない。
家具製造	円安による原材料等の高騰。

印刷	円安による資材の高騰が不安。
窯業・土石（砂利）	例年に比べ工事量が少ない。
窯業・土石（山碎石）	公共工事の発注の減少に伴い骨材出荷前年当月比81.6%と悪化。電気・燃油・鉄鋼・ゴム等の諸資材の高騰もあり利益確保が難しく、設備投資ができない状況が続いている。
鉄鋼・金属	景気は横ばいだが、円安により材料費が高騰。
電気機器	電機、鉄鋼、機械、各業界において物量の変動が激しく短納期及び安価なコストでの受注のため、人件費や原材料等の費用が割高となり物量が集中しても利益が出ない。
宝飾（貴金属）	業況は良くない。新商品開発も難しい。技術者が高齢化しているが若手が育っていないため、5年後、10年後の業界の体制が心配である。

● 非製造業

卸売（紙製品）	販売単価、売上ともに上昇しているが、仕入競争による仕入値の値上がりによるため収益性は変わらない。また、書籍の購読減による古紙への減少が顕著である。
卸売（ジュエリー）	平成26年4月の消費税率引き上げ後と変わらないくらい国内流通は悪化。しかし、中国人バイヤーへの販売については好調だが、企業間格差が顕著。
小売（青果）	5月は天候に恵まれ野菜等の入荷量が増加し販売価格も値下がりしたため収益状況は改善傾向にある。
小売（食肉）	円安等の影響により仕入価格が上昇しているが、販売価格への転嫁が難しく収益は悪化している。
小売（水産物）	円安による食料品の値上げが続いているため、消費者の買い控えが強まっている。
小売（石油）	円安だが原油価格も値下がりしているため、販売価格は横ばい。
商店街①	ゴールデンウィーク期間中、県外からの観光客が多く見受けられた。3月のコロリのリニューアルオープンにより若い方の来街者が増加傾向にある。
商店街②	仕入価格の上昇と消費税増税により利益薄となり厳しい環境になっている。
不動産取引	東京から物件買い取りの依頼が多い。
宿泊業（甲府）	売上増、稼働率増は、外国人観光客（特に中国人）の増加によるところが大きい。
宿泊業（石和）	外国人観光客（中国）の増加により業況は好調。

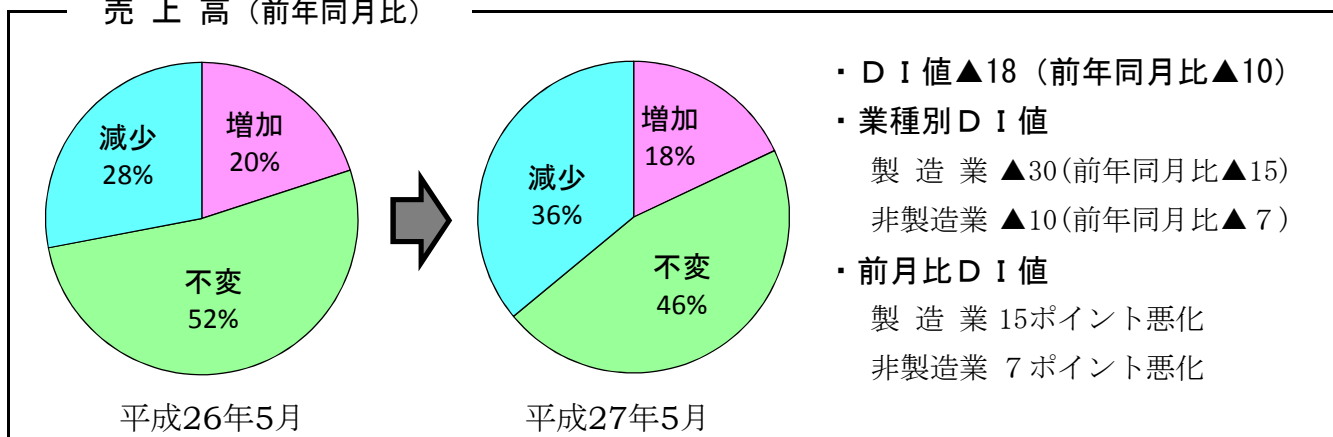
美容業	安売りヘアースタイル店が増加傾向にあり通常美容料金体系では対応できなくなっており、徐々に影響がでてきている。業界としても低料金店舗を規制強化し健全な美容料金体制を維持し利益向上を図る必要がある。
廃棄物処理（産廃系）	廃棄物収集運搬事業の収益だけでは企業の経営力が脆弱であるため業態拡大や異業種進出を行いたいと思う事業者は少なくない。資金力に乏しいことや既存得意先の業務とのバッティングが多くなってしまうことや後継者難から、なかなか一歩を踏み出せない。今後は個別企業での新事業展開よりも組合や業界団体のネットワークを利用した事業展開がますます重要になってくる。
警備業	公共工事の発注が遅れているため5月の売上は前月より更に落ち込んだ。
建設業（総合）	前払金保証から見た5月の県内公共工事動向によると、件数で14%、請負金額で42%減少。
建設業（型枠）	今年に入り仕事数が激減しており5月も低迷を続けている。
建設業（鉄構）	今年に入り仕事量は若干減少している。確保している仕事のほとんどが、首都圏を中心とした県外の物件である。
設備工事（電気工事）	今年、例年ほど見積もなく仕事の目途が立たない。公共工事の発注を早く出してもらいたい。
設備工事（管設備）	円安による原材料高などの経費の上昇や技術者の不足等による人件費の増加により販売価格は上昇傾向にある。
運輸（タクシー）	甲斐善光寺のご開帳や春の蔵出しワインバー等のイベントがあったが売上を左右することはなかった。
運輸（バス）	外国人旅行客の増加に伴い、東京都内でのバスの調達が困難なため山梨県までバスの確保をしてくる旅行会社が多く、稼働率が高まっている。
その他（介護）	4月の介護法の改正に伴い例年から比べ売上が減少傾向。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

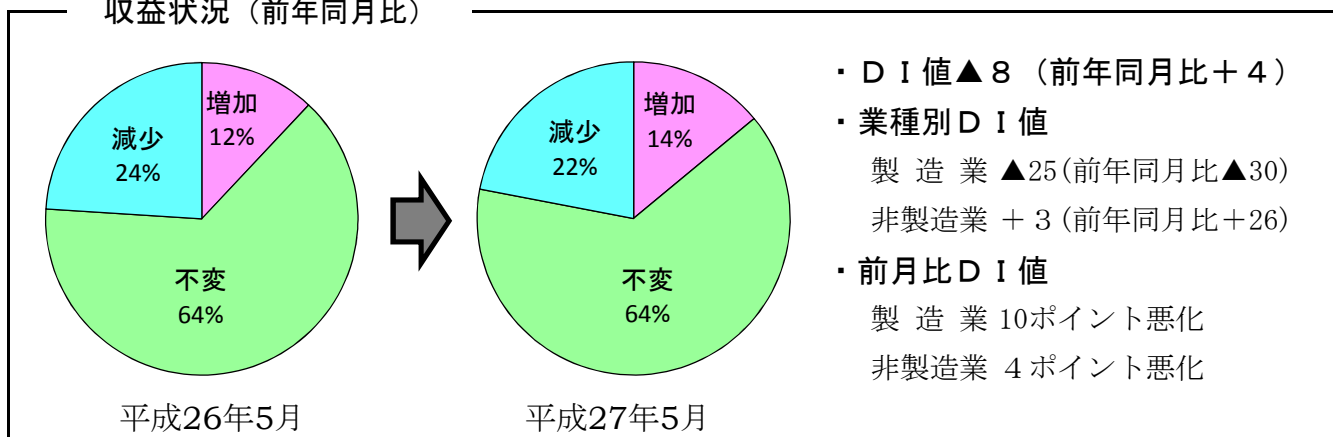
対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2014/5	2015/4	2015/5	2014/5	2015/4	2015/5	2014/5	2015/4	2015/5
売上高	-15	-10	-30	-3	13	-10	-8	4	-18
収益状況	5	-15	-25	-23	7	3	-12	-2	-8
景況感	-20	-20	-20	-10	-7	-20	-14	-12	-20

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

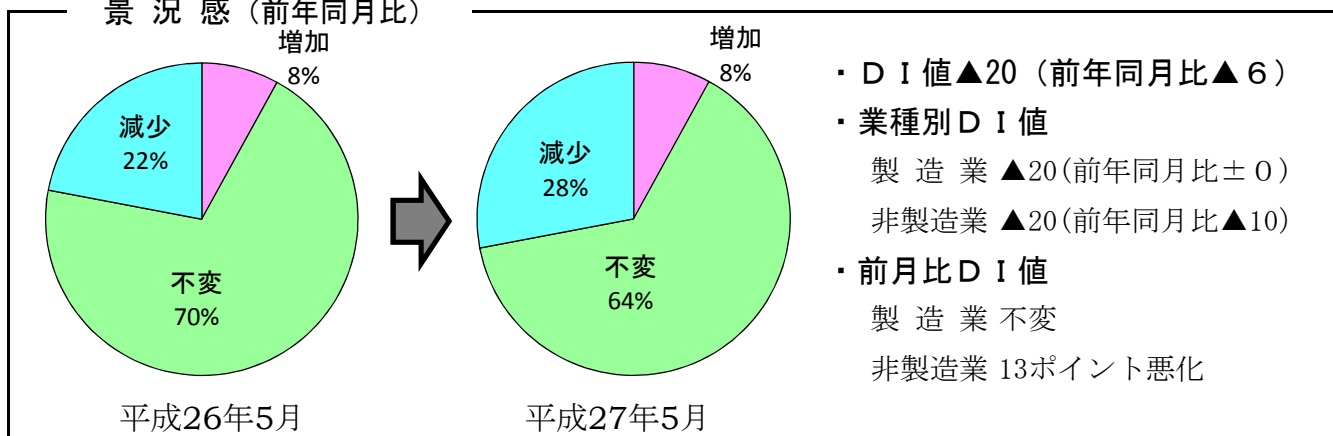
売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）



昨年対比グラフ

売上高

	増加	不変	減少
平成26年5月	20%	52%	28%
平成27年5月	18%	46%	36%

収益状況

増加	不変	減少
12%	64%	24%
増加	不変	減少
14%	64%	22%

景況感

増加	不変	減少
8%	70%	22%
増加	不変	減少
8%	64%	28%